



ごみゼロ リーダー

住吉区 第11号

NEWS

平成30年9月発行
西南環境事業センター

住吉区 第8期

廃棄物等推進員(ごみゼロリーダー)の委嘱式及び研修会開催

■ 平成30年8月7日(火)18時30分から、住吉区民センター小ホールで第8期廃棄物減量等推進員(ごみゼロリーダー)の委嘱式が行われ、56名の方にご参加いただきました。

冒頭、朝川区長の挨拶より始まり区代表、各連合代表の方々に区長から委嘱状の授与が行われました。

授与の後、廃棄物減量等推進員区代表の鈴木 泰雄様より「行政と地域が協力しごみ減量に取り組んでいかなければならない」と、挨拶をいただき委嘱式を締めくくりました。



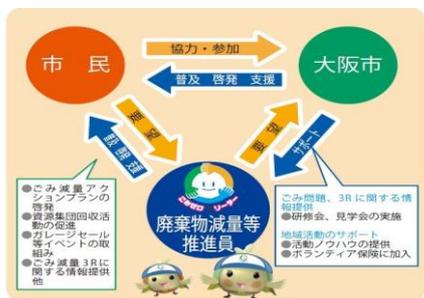
引き続き研修会を実施

■ 委嘱式終了後の第2部では研修会を行ない、西南環境事業センター職員により、廃棄物減量等推進員とは、また、役割について説明をさせていただきました。

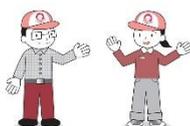
続いて、NPO法人 大阪環境カウンセラー協会 谷 美也子様より「温暖化を考えよう。まずは、ごみ減量から」今、問題となっている地球温暖化の原因となる温室効果ガス(CO₂など)の削減について、私たちに出来ることの1つとして、ごみ減量(ごみ分別)により焼却量を減らしCO₂排出量を減らす、また、手軽に分別が出来る工夫など実演を交えた講義が行われました。



■ 推進員の皆さまには、環境事業センターと連携して、ごみ減量や3R(リデュース・リユース・リサイクル)を推進する地域のリーダーとして、また、大阪市と地域住民とのパイプ役として活動をお願いいたします。



地域の リーダー



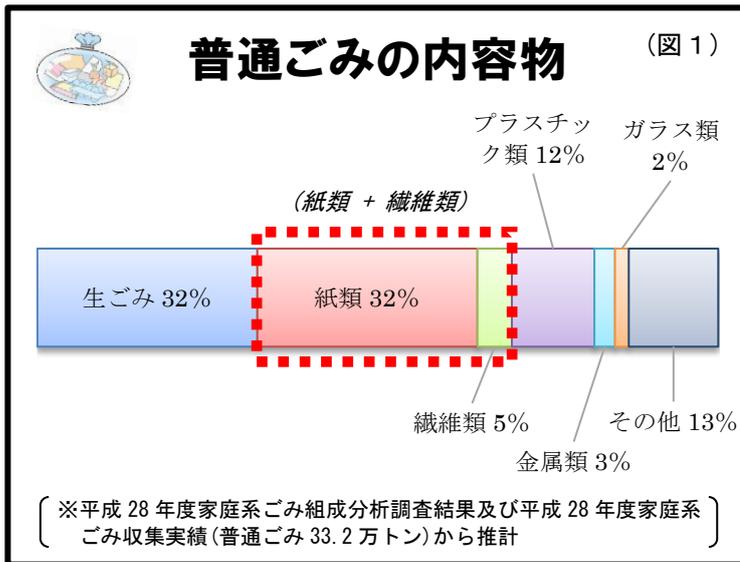
ごみ減量に向けて!! 住吉区での取り組み

普通ごみの中に資源化出来るもの

年間約8.3万トン

■ 大阪市の家庭から出される普通ごみ(焼却処理)は、年間約 33.2 万トンあり、その中には資源化できるものが約 8.3 万トンも含まれています。

ごみの減量、資源の有効利用には、資源化できるものを分別して出すことが大切です。



■ 家庭から排出される普通ごみの組成分析の結果、紙類と繊維類を併せると約 4 割にもなります。(図 1)

大阪市では平成 37 年度のごみ処理量(焼却量)84 万トンを計画目標とし、ごみ減量に取り組んでおります。そこで、区ごとのごみ減量目標を設定し「地域」と一体となって進めていくことが重要であり、「ごみゼロリーダー」の皆さんと連携し取り組んでまいりたいと考えています。

古紙のリサイクルは、環境にも優しい

■ 紙 1 トンを作るのに、樹木(直径 14 cm×高さ 8m)を 30 本使用します。皆さんご存知のとおり樹木は、CO₂を吸収してくれます。今、問題になっている地球温暖化も CO₂排出が大きな要因の 1 つとされており森林を守ることは地球にも優しいのです。

◀編集・発行▶

大阪市西南環境事業センター (住之江区泉 1-1-111)

TEL : 06-6685-1271/FAX : 06-6685-1282



住吉区では「古紙」を

重点的に分別を

■ 平成 28 年度の市域分別率に対し住吉区の分別率は「資源ごみ」76.3%に対し 73.0%、「容器包装プラスチック」39.3%に対し 40.7%、「古紙・衣類」59.3%に対し 55.8%となっており、平成 37 年度の市域の目標分別率(古紙・衣類は 80.1%)との差が最も大きい「古紙・衣類」を重点的に分別率アップにとりくんで行くことを朝川区長と決定し、平成 37 年度までに段階的に古紙の分別率を上げていく計画です。

(住吉区 28 年度市域平均および 37 年度市域目標)

| | 資源ごみ | 容プラ | 古紙・衣類 |
|---------------|-------|-------|-------|
| 28 年度市域の分別率 | 76.3% | 39.6% | 59.3% |
| 28 年度住吉区の分別率 | 73.0% | 40.7% | 55.8% |
| 37 年度市域の目標分別率 | 79.5% | 50.7% | 80.1% |

古紙分別量アップ計画

1回に出す普通ごみの中から

A4コピー用紙3枚分を減らす。

■ 平成 37 年度の市域目標に向けた 1 人あたりの平成 31 年度年間分別量アップは 1,170 g となり 1 回に出す普通ごみの中から 11 g (A4 版コピー用紙 3 枚分) ずつ毎年減らすと平成 37 年度に目標が達成出来ます。

目標達成には、ごみゼロリーダーの皆さんのご協力が必要不可欠です。

